

ESD フードプロジェクトの実践報告 ー生徒主体の活動作りをめざした取り組みー

永野 和美
神戸大学附属中等教育学校

1. 社会的意義

本プロジェクトは2016年より開始し、「食を通して考える持続可能な生活と社会」をテーマに活動を行っている。プロジェクトの目的は、食に関わる課題を多様な他者との協働を通して課題解決力、意思決定力、批判的思考力などの育成を目指している。プロジェクトの活動が軌道に乗り始めた2年目より、受け身で参加している、活動で得た学びを十分に生かしていない生徒の姿が目立ち始めるようになった。生徒は学業や部活動に加え、行事の実行委員、諸活動の参加など多忙な日々を過ごしている。生徒が主体的に活動するために教師はどのように関われば良いかを考えたい。

2. 目的

生徒が主体的に活動するための教師の関わり方を考える。

3. 方法

3年目からは、それまでの教師主導から生徒主導の活動となるように教師の関わり方を変えた。教師は「待ち」の姿勢で、生徒と一緒に考え、疑問は投げかけるが自分の思いや考えを優先しないように心がけた。定期的なリーダー会（各学年2名）を開催し、リーダーに決定権を持たせたことと、リーダーからリーダー以外の生徒にも広げるようにした。

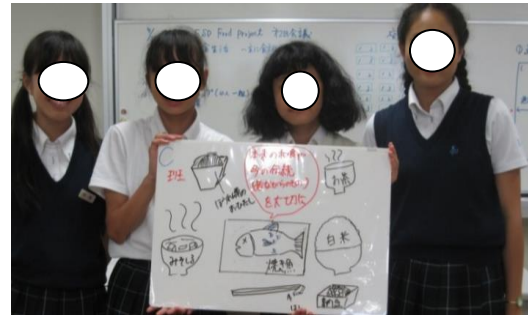


【新たな活動を始めるために有志メンバーへ説明】

4. 結果

リーダーが意思決定する場面や中心となって運営する活動が増加した。また、リーダー以外の生徒も責任を持って活動をやり遂げる姿があ

り、学んだことを教科や探究学習に活かしたり、食を多角的にとらえたりする姿があった。その一方で、課題意識や目的を生徒と共有しないまま取り組んだ活動は、十分な話し合いを経ないものになり、時間がないことも重なり実践に繋がれなかった。適切な活動日の設定や課題意識を持たせることが必要になる。また、リーダーとリーダー以外の生徒の活動に取り組む意識や態度に差があり、望ましい姿をメンバーにフィードバックするなどの手立てが必要だった。



【ワークショップ：50年後の理想の食生活】

5. 今後の課題

今後は持続可能な食生活や社会のあり方を全員で共有し、そのために必要な活動を考え、生徒が企画運営する活動を増やしたい。生徒が食に興味関心を持ち、多様な人々と協働し、様々な学習や自己のキャリア形成と関連づけながら学ぶことや粘り強く取り組んだり、責任を果たしたり、次の活動につなげたりすることができるよう、主体的な活動作りを促していきたい。



【フードドライブで回収した食品を寄贈】